

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発行：吉田 淳
事務局：愛知教育大学理科教育講座 内
URL : <http://www.jsse.jp>

2011.10.25

NO.204

科学教育研究レター



目 次

総会

第 35 回定時総会報告 2

理事会だより

第 244 回理事会報告 3

第 245 回理事会報告 6

第 246 回理事会報告(案) 9

第 247 回理事会報告(案) 10

平成 23 年度顧問会・評議員会・

支部役員会合同会議報告 11

年会

第 35 回年会開催報告 12

第 36 回年会開催案内(第 1 次) 13

若手の会

第 35 回年会・若手の会報告 14

国際交流委員会だより

外国語版ホームページ更新 14

海外の学会参加報告(1) 14

編集委員会だより 15

広報委員会からのお知らせ 16

日本科学教育学会第 35 回定時総会 報告

日 時 2011 年 8 月 24 日 (水) 12:30 ~ 13:30

会 場 東京工業大学すずかけ台キャンパス すずかけホール 3F 多目的ホール

- 次 第 (進行：吉岡亮衛 理事)
1. 開会の辞 (熊野善介 副会長)
 2. 第 35 回年会実行委員会委員長挨拶 (寺野隆雄 委員長)
 3. 会長挨拶 (吉田 淳 会長)
 4. 議長選出
定款第 26 条により吉田 淳会長を議長に選出した。
 5. 議事録署名人委任 (吉田 淳 会長)
議事録署名人を寺野隆雄(東京工業大学)、清水克彦(東京理科大学)の両会員に委任することを、拍手をもって承認した。
総会出席者 65 名、委任状 91 通で定時総会成立を確認した。
 6. 審議 (議長：吉田 淳 会長)
 - 1) 第 1 号議案の提案 (小川義和・坂谷内勝 理事)
2010 年度事業報告書及び収支決算書の説明と提案が行われた。
 - 2) 監査報告 (堀 哲夫 監事)
監査の結果、学会の全ての会計処理が適切に行われていたことを確認した旨の報告があり、第 1 号議案は承認された。
 - 3) 第 2 号議案の提案 (小川義和・坂谷内勝 理事)
2011 年度事業計画書及び収支予算書(案)の説明と提案が行われ、議長による法人化対応に関する補足説明があった後、第 2 号議案は承認された。
 7. 表彰
 - 1) 経過報告 (代理：小川義和 理事)
学会賞選考委員会での選考経過の報告が行われた。
 - 2) 表彰 (吉田 淳 会長)
科学教育実践賞
・加藤 浩(放送大学学園) 鈴木栄幸(茨城大学) 舟生日出男(広島大学大学院)
久保田善彦(上越教育大学) 平澤林太郎(小千谷市立小千谷小学校)
年会発表賞
・岡田 努(福島大学)
なお、大塚賞、学術賞、国際貢献賞、論文賞、奨励賞については本年は該当なし。
 8. 次年度第 36 回年会実行委員会事務局長挨拶 (清水克彦 東京理科大学教授)

9. 閉会の辞

(熊野善介 副会長)

(記録：平野俊英 庶務幹事)

議事録署名人

日本科学教育学会第 35 回定時総会の議事が、上記のように執り行われたことが間違いのないことを証します。

寺野隆雄 (第 35 回年会実行委員会委員長) 清水克彦 (第 36 回年会実行委員会事務局長)

理事会だより

日本科学教育学会第 244 回理事会報告

(要点のみ参考掲載)

(なお、本理事会は、当初 3 月 19 日に開催予定であったが、東日本大震災への対応の結果、開催日を 4 月 23 日に変更したものである。)

日時 2011 年 4 月 23 日 (土) 14:00 ~ 17:00

会場 コクヨ 品川オフィス会議室

出席者 会長 吉田
理事 吉川、熊野、吉岡、小川、坂谷内、土田
銀島、美馬、藤岡、今村、隅田、佐伯
高藤、荻原、久保田、渡辺
監事 鶴岡、堀
幹事 平野
年会実行委員長 寺野

1. 議事要録(案)の承認

第 243 回理事会懇談会記録(案)を承認した

2. 第 244 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

「日本科学教育学会第 243 回理事会 懇談会記録(案)」の討議内容を承認し、「日本科学教育学会第 243 回理事会議事要録(案)」とすることについて、一部修正の上承認された(10/12/4)。

1) 関西支部長、2) 大塚賞副賞の扱いの 2 案件について、電子会議による審議の結果承認された(10/12/16)。

事務局からの発議により、12月28日までに入会を希望した7名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(1月13日)。

事務局からの発議により、1月31日までに入会を希望した8名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(2月10日)。

事務局からの発議により、2月28日までに入会を希望した7名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(3月10日)。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

文書受理の報告があった(刊行物送付・メールでの受理を含む)。

【日本学術会議】学術誌に関するアンケート(10/11/29)への対応した。

日本学術会議会員及び連携会員の候補者に関する情報提供(10/11/26)を行った。

郵便審査事務センターの「学術刊行物の発行の都度の見本調査結果等について(通知)」について発行人を学会名に変更して書類を提出し、奥付も学会名に変更した(10/12/2)。

研究会報告についてのリポジトリの問い合わせについて、研究報告、年会論文集とも学会誌の取扱いに準じて対応

湘南工科大学：文科省の推進プログラム(教育GP)に第34回年会論文を成果報告書に掲載依頼。日本科学教育学会誌『科学教育研究』著作権規定に準拠して掲載。

筑波大学・アジア太平洋経済協力国際会議後援名義を行った(11/01/07)。

委嘱状の発行：編集委員会委員長、副委員長、幹事及び委員(30名)(委嘱期間：2010年7月1日から2012年6月30日)

日本学術会議会員及び連携会員の候補者に関する情報提供依頼に対し、女性2名を含む5名の情報をウェブフォームから回答した(11/1/25)。

日本学術協力財団からのデータベース「学会名鑑」に関する調査依頼(11/2/2)に対し、調査票を回答した(11/3/7)。なお、今回から提供依頼のあった英文情報については作成して後日送付することとし、対応を国際交流委員会に依頼した。

2) 経理・会員

2010年度中間決算報告があり、第34回年会(広島大)実行委員会からの収支決算書の受け取りを追加、加えて実行委員会から50万円の返金について報告があった。

3) 機関誌編集

機関誌編集状況及び論文執筆要項の一部修正の報告があった。

特集の編集の進捗状況について、公募論文7本が入稿済。英文の招待論文については、入稿がないので掲載を断念する可能性ありとの報告があった。

4) 学会賞

5月23日締め切りの学会賞推薦に関して、実践賞1件の推薦があり、さらに理事の方からの推薦をお願いしたい旨、報告があった。

5) 支部・研究会

震災の対応で3月12日(土)開催予定の研究会支部会中止に伴う対応措置について北関東支部から研究会開催の希望が出されたとの報告があった。

6) 調査研究・学術交流

教科理科関連学協会のシンポジウムを今年度はサイエンスアゴラに関係させて、一般向けの内容で行なうことを検討中との報告があった。

7) 国際交流

国際交流委員会委員が承認された。

今年度の国際会議の日程について報告された。特に今後開催される国際学会のスケジュールが報告され、EASE(東アジア科学教育学会)との連携を強化していく予定との報告があった。

HPの英文領域について、作成状況については、概ね完成しているとの報告があった。

8) 年会企画

第35回年会(東京工業大学)に向けての準備状況について、会場の配置、年会シンポジウムのテーマ(震災対応)の変更、年会実行委員会企画セッションについて報告があった。また、夏期の電力制限への対応方策について提案された。

第37回年会開催機関が三重大学に決定したとの報告があった。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

退会希望者 5名が承認された

(メール審議の結果について、再度回覧資料に基づき退会承認が確認された。)

* 現在会員数 1279名 年度末退会者を含む(2011年2月28日付け)

(正会員 1192名、学生会員 70名、公共会員 1名、賛助会員 3名、名誉会員 13名)

2) 第244回理事会の審議について

震災の影響で3月予定の理事会を延期して、4月に実施したことにより、その間の緊急対応したメール審議による承認事項について再度承認の確認をおこなった。さらに承認事項については、第244回理事会の議事録とすることを決定した。

3) 東日本大震災で被災された会員に対する緊急処置について

回覧資料に基づき、被災者数を確認した上で、学会の取り組みについて提案があり、被災者には平成11年度年会費を免除することを決定した。そのための案内を出し、会員からの自己申告に基づいて許可していく方向が承認された。なお他の取り組み(科学教育イベント、研究活動など)については今後の理事会で検討することとし、理事からのアイデアを募集する。

4) 下半期の予算執行について

年会システム(年会論文集の電子化など)の変更に伴う経費について、今後調整を行うこととした。

5) 2010年度年会発表賞選考について

資料を基に検討した結果、最多得票者1名を年会発表賞受賞候補者とすることを決定した。

6) 年会発表賞の募集、選考方法の今後の在り方について

投票数が少なく、票数で決するのは難しいとの報告があった。そのため選考規程と照らし合わせ、2011年度のやり方について担当理事から原案を出してもらい、次回理事会で検討することとした。

7) 今年度第3回研究会の措置について

震災の影響で中止とした3月12日(土)の研究会は、発表要旨も作成済であることなどを踏まえ、開催したことにすることを承認した。

研究会は総会での年度計画に基づいて行われているが、当初予定されていなかった研究会についても理事会の決定により、JSS Eの名を関して実施することを承認した。

5 月中に各支部長に確認を取る次年度研究会の開催については、6 月の理事会での承認を得た時点から実施に向けた活動を開始してもよいことを承認した。

8) メールマガジンの掲載方針について

資料に基づき審議の結果、ホームページ及びメールマガジンによる会員への情報提供の役割分担が承認された。

9) 科学教育研究レターのコピー制限について

レターに書かれた情報をコピーできるように PDF のコピー制限を外すことが承認された。ただし、メールアドレス等の個人情報に対する配慮は行なう。

10) 科学教育関係の国際連携研究の推進について

資料に基づき、各国際学会との連携を深める方向が確認された。アジアなどどのような学会との連携が必要か、優先順位を持って取り組むとの意見もあった。

11) 年会論文集の電子化について

年会論文集の電子化については、次回以降の年会においても電子化を勧めるとの条件で承認した。

12) 名誉会員規程

名誉会員規程の改訂について趣旨説明があり、原案に意見に対する意見招請を行い、詳細は次回の理事会で決定したい旨の提案があった。

次回以降の理事会予定

第 245 回：2011 年 6 月 18 日（土）13 時 30 分から 17 時 00 分 場所：コクヨ品川オフィス

日本科学教育学会第 245 回理事会報告

(要点のみ参考掲載)

日時 2011 年 6 月 18 日（土）13:30～17:00
会場 コクヨ 品川オフィス会議室
出席者 会長 吉田
理事 吉川、熊野、吉岡、小川、坂谷内、猿田
土田、銀島、美馬、片平、今村、渡辺
縣、小山、高藤、荻原、久保田
監事 堀
編集委員会委員長 中山
年会実行委員長 寺野

1. 議事要録（案）の承認

第 244 回理事会議事録（案）を承認した。

2. 第 245 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

事務局からの発議により、3月31日までに入会を希望した10名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(4月11日)。

事務局からの発議により、4月28日までに入会を希望した15名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(5月11日)。

事務局からの発議により、5月31日までに入会を希望した8名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(6月13日)。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

文書受理(刊行物送付・メール受理も含む)について報告があった。

筑波大学:科学の芽賞の後援依頼(3月14日)

公益財団法人日本科学技術振興財団:「青少年のための科学の祭典2011」後援名義使用申請(4月28日)

2) 経理・会員

震災関係の会費免除について4件の申請があり、うち3件を承認した旨の報告があった。

3) 機関誌編集

編集状況について資料に基づき報告があった。機関誌35(2)の編集状況について年度内(6月末)までに刊行できるように事務支局などと調整を図る点を確認した。

4) 支部・研究会

次年度の研究会の開催について報告があり、関西支部と南関東支部を除いた6支部で開催が予定されていることが報告された。南関東支部については未回答で、今後確認をして年会の総会にて事業計画として報告することとなった。(後日報告があり2011年度は8支部で開催予定として総会に報告となった。)

5) 調査研究・学术交流

教科「理科」関連学協会の小学校理科向けのシンポジウムを今年度はサイエンスアゴラで開催すること、また来年4月以降の中学校学習指導要領の本格実施に向けての対応について検討中であるとの報告があった。

6) 国際交流

EASE(東アジア地区の科学教育学会)などの情報提供があり、学会員の積極的な参加を呼びかけることとなった。

7) 年会企画

第35回年会(東京工業大学)に向けての準備状況について、電子化に向けての対応、参加費の減額、シンポジウムの内容を地震関連に変更することなどの報告があった。

年会2日目の理事会・各種委員会の開催は、理事会の検討事項の進み具合を踏まえて判断することとした。

後援名義の申請先の選定は、実行委員会の判断で行うこととした。

8) 会員拡大

会員拡大に向けた取り組みとして、年会当日入会を希望する一般参加者に対し入会手続きをし、会員扱いで年会参加費を処理することとした。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

退会希望者 8 名が承認された。

* 現在会員数 1266 名 年度末退会者を含む (2011 年 6 月 8 日付け)

(正会員 1197 名、学生会員 69 名)

2) 東日本大震災関連

被災地の小学校・中学校への理科・数学教育の支援について、資料にも続き報告された。被災地への支援について、本学会の独自で文科省への働きかけをするとともに、教科理科関連学会等で各学会連合の形で被災地への支援する方向で進めていくこととなった。

3) 2010 年度学会賞について

平成 23 年 6 月 18 日に学会賞選考委員会を開催し、大塚賞、学術賞、国際貢献賞、論文賞、奨励賞については該当なし。教育実践賞として、加藤 浩 (放送大学学園) 鈴木栄幸 (茨城大学) 舟生日出男 (広島大学大学院) 久保田善彦 (上越教育大学) 平澤林太郎 (上越教育大学大学院) の「Kneading Board 協調学習支援システムの開発と実践」が決定した。

4) 2010 年度年会発表賞について

年会発表賞について、担当理事から推薦があり、「「ふくしまサイエンスプラットフォーム」における大学の果たす役割 (2)」岡田 勉 (福島大学) に決定した。

5) 学会賞、年会発表賞の募集、選考方法の今後の在り方について

論文賞、年会発表賞など、選考の材料となる推薦数が少ない状況が課題であることが報告された。年会発表賞は、評価の観点を加える、各セッションでの回収率を上げるなどの検討を加える。論文賞は、理事の責任で推薦をし、学会員の推薦と合わせて、選考するとの方向で検討することとなった。実際の運用の時期と方法については今後担当理事で検討する。

6) 年会論文集の電子化について

年会論文集の電子化について、その考え方、手法、問題点などについて説明があった。年会論文集及び「日本科学教育学会第 35 回年会論文要旨集」(仮称)の ISSN 番号の取得・継続性を踏まえ、第 36 回年会以降も会場校の状況にも配慮しつつ、電子化の方向で考えていくことで承認された。

7) 第 35 回年会総会における議案

別紙資料に基づき、説明が行われた。事業報告は承認した。

事業計画については、支部活動の予定の確認、震災対応と法人化対応を加え、承認した。

決算については、監査ののち次回理事会までにメール審議を行うこととした。

予算については、震災対応事業、法人化対応事業を新規項目として追加され、承認した。

8) 名誉会員規程について

内規の 3. に「本学会の社会的知名度を高めることに多大な寄与をなす者」を加筆修正することを承認した。

9) その他

学会法人化への対応については、他の学会との連合での対応も考慮し、引き続き検討を加え、第 36 回の総会を目途に素案を練ることとした。

年会企画委員会・年会実行委員会など、その機能の見直しを踏まえ、理事の会務分担・組織の在り方について、今後検討することとした。

次回以降の理事会予定

第 246 回：2011 年 8 月 23 日（火）17：30～18：30 場所：東工大

日本科学教育学会第 246 回理事会報告（案）

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日 時 2011 年 8 月 23 日（火）17：30～18：30
会 場 東京工業大学 すすかけ台キャンパス F会場（J2 棟 3 階 J233 教室）
出席者 会長 吉田
理事 吉川、熊野、吉岡、小川義、坂谷内、猿田
土田、銀島、片平、藤岡、今村、渡辺
縣、小山、隅田、佐伯、高藤、久保田
監事 堀、鶴岡
幹事 平野
顧問 小川正
委員長 中山（編集委員会）寺野（年会実行委員会）
山口（年会企画委員会）
支部長 名越（東北）

1. 議事要録（案）の承認

第 245 回理事会議事要録（案）を承認した。

2. 第 246 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果（以下）を承認した。

総会議案（予算書の修正）の承認（7 月 23 日）

6 月 30 日までに入会を希望した 35 名を電子会議により審査した結果、全員の入会を承認（7 月 12 日）

7 月 31 日までに入会を希望した 18 名を電子会議により審査した結果、全員の入会を承認（8 月 12 日）

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

事務局より文書受理（刊行物送付、メール受理を含む）の報告があった。

2) 機関誌編集

編集状況について以下のように報告があった。

新規投稿論文（2011.6.9～2011.8.11）：12 編（内訳：和文 11 編、英文 1 編）

査読中論文（2011.8.11 現在）：14 編（内訳：査読員選定中：2 編、査読中（1 回目）：5 編、担当編集委員による総合判定中（1 回目）：1 編、改訂稿待ち：2 編、査読中（2 回目）：2 編、担当編集委員による総合判定中（2 回目）：1 編、編集委員長による最終判定：1 編）

掲載決定論文(2011.6.9~2011.8.11 現在):4編(内訳:研究論文3編、プラザ1編(通算合計35-3:7編、35-4:1編))

3) 学会賞

資料に基づき年会発表賞の投票の形式の変更と周知について説明があった。形式の変更については承認された。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

退会希望者29名について、回覧資料に基づき退会承認を確認。除名対象者・住所不明者については、各理事の方で連絡をして、確認をとることとした。確認の結果は、事務支局または経理・会員担当理事へ報告することとなった。

*現在会員数1300名(正会員1212名、学生会員88名)(2011年8月8日付け)

2) 総会議案について、資料に基づき、説明があり、承認された。なお学術交流の支出が0であり、今後活性化を臨むという意見があった。

次回以降の理事会予定

第247回:2011年8月24日(水)11:30~12:30 場所:東京工業大学 すすかけ台キャンパス F会場(J2棟3階J233教室)

日本科学教育学会第247回理事会報告(案)

(議事要録承認前。要点のみ参考掲載)

日時 2011年8月24日(水)11:30~12:30

*第246回理事会で積み残しとなった報告事項を中心に、第247回理事会を8月24日に開催することとした。

会場 東京工業大学 すすかけ台キャンパス F会場(J2棟3階J233教室)

出席者 会長 吉田

理事 吉川、吉岡、小川、坂谷内、猿田、銀島
藤岡、今村、小山、佐伯、高藤

監事 堀

幹事 平野

委員長 寺野(年会実行委員会)

1. 報告及び協議事項

1) 支部・研究会

今後の研究会及び研究会報告のあり方について提案があった。本年度8回の研究会が予定されているが、今後は10支部がそれぞれ活動を進めていく方向で予算的な措置も考慮することが承認された。

また、支部の区割りについて北陸甲信越はままとりの面からも見直す必要があるとの提案がなされ、今後検討していくことになった。

2) 年会企画

第 35 回年会について現状報告があった。第 36 回年会（東京理科大学）における論文集の電子化については、確実に実施できることが表明されたが、第 37 回年会（三重大会）以降については、年会開催校と年会企画委員会が実施する方向で協議をしていくとの報告があった。

当日申し込み制の導入で、年会当日窓口での新規申込者が数名あったとの報告があった。

3) 組織改革

今後、学会の法人化への対応を具体的に検討することとなった。

4) その他

会長直属のワーキンググループを立ち上げ、会長・理事・監事の候補者について検討することとなった。

次回以降の理事会予定

第 248 回：2011 年 11 月 19 日（土）14：00～17：00 場所：コクヨ品川オフィス

第 249 回：2012 年 3 月 17 日（土）14：00～17：00 場所：コクヨ品川オフィス

第 250 回：2012 年 6 月 16 日（土）14：00～17：00 場所：コクヨ品川オフィス

平成 23 年度顧問会・評議員会・支部役員会合同会議報告



日時：2011 年 8 月 23 日（火）18:30～19:30

会場：東京工業大学すずかけ台キャンパス J2 棟 3F J234 教室

平成 23 年度顧問会・評議員会・支部役員会合同会議は、顧問（3 名）、評議員（14 名）、支部役員（2 名）、役員（19 名）、年会実行委員長（1 名）が出席して開催された。吉田会長と寺野年会実行委員長の挨拶、自己紹介に続いて、小川理事（庶務）、坂谷内理事（経理・会員）から、事業報告、事業計画、収支決算・予算等について説明が行われ、鶴岡監事から監査報告が行なわれた。その後、吉田会長から、学术交流の充実や法人化対応等の検討課題を含め新年度の学会運営及び事業について方針説明があり、参会者からこれらについて質問や意見が出された。

暑い・熱い大会：第 35 回年会 開催報告

日本科学教育学会第 35 回年会は、平成 23 年 8 月 23 日(火)～25 日(木)の 3 日間の日程で東京工業大学すずかけ台キャンパスで開催されました。

年会のテーマは「次世代の科学力を育てる：社会とのグラウンディングを実現するために」でした。「次世代の科学力を育てる」というメインテーマは現代の科学教育においてきわめて重要な課題であるため、第 33 回年会から引き継いでいます。今年は、特に、科学力を社会全体に根付かせることをねらいとして新たに求められる科学教育の諸要件について議論することとしました。ところが、3 月 11 日に東日本大震災が発生し、それに伴う混乱のために、この科学力を社会にグラウンディングさせるというテーマはきわめて切実なものになりました。

まず、大会を開催できるかどうかを決定し、また、開催する場合の「想定できる事象」を、科学的な根拠に基づいて考察することが実行委員会・企画委員会に求められたわけです。さまざまな議論の結果我々が決定したのは、電力不足に対応できるような大会のデザインと東日本大震災に関連して本学会がなすべき役割をシンポジウムで扱うことの 2 点でした。

電力不足に関連しては、各会場におけるクーラー設備の利用を最小限に抑えるため「クールビズ」を奨励することとしました。従来、スーツ姿での発表が普通であった年会的場で、軽装をお願いすることには多少のためらいもありましたが、もともと暑い時期でもあり軽装での年会は今後も定着するとよいと思っております。また、万が一の停電時に、発表当日に PC プロジェクタの利用ができなくなる場合に備えて、各発表者にはポスター発表の準備をお願いすることとしました。さいわいなことに懸念されていた電力不足は問題にならず、ポスター準備の願いは実際には行われませんでした。大量のポスター発表にあわせた会場まで準備していたことは記録しておいていいと考えております。

本学会がなすべき役割については、被害地の状況に鑑みて「東日本大震災」を直接扱うのはどうかという意見もありましたが、他学会でも同様なテーマが取り上げられている状況もあり、「非常時を乗り越える科学教育：いま東日本大震災から考える」というシンポジウムテーマを設定させていただきました。

シンポジウムは、すずかけホールにて 8 月 24 日の午後に開催されました。本学会副会長の熊野善介先生(静岡大学)に司会を、本学会会長の吉田 淳先生(愛知教育大学)に基調講演をお願いしました。登壇者には、神田玲子(放射線医学総合研究所)、牛山素行(静岡大学)、折田明子(慶應義塾大学)、菊池聡(信州大学)、隅田 学(愛媛大学)の諸先生方に、指定討論者に國上真章(東京工業大学)、小川正賢(東京理科大学)のお二人をお迎えし、放射線被ばくの話から、震災時のコミュニケーション、さらには、非常時に対応するための科学教育のありかたに関する話題まで非常に広く深い議論をしていただき、時間が不十分に感じられるほどでした。

本年会での新しい試みとして、会議論文の電子化(USB メモリ化)と参加希望者の事前登録の奨励があります。これは会場校のスタッフが少人数であっても年会的実行可能にする方法としてきわめて有効です。すなわち、メリットとしては、投稿者・発表者にとって最終原稿の締め切りをぎりぎり遅らせ

ることができ、同時に、事前登録者にとっては、大会開催日以前に論文の講読ができるようになることが挙げられます。論文の事前講読は、特に、座長担当者にとってはきわめて重要な事項であり、また、興味深い内容を事前を知ることができるという点でも会員サービスの向上に役立ちます。これを、さらに早期登録者に対する事前振り込み割引きという特典を与えることで促進し、当日受付における金銭処理の軽減を図りました。さらに、電子媒体として配布した会議論文集は印刷製本すれば、前年までのものと非常によく似た冊子になるように編集したことも、従来 of 年会との継続性を考える上で重要であったと思われます。

このようにさまざまな問題を想定し、新しい試みとともに開催した今年の年会は、まさに、暑く、熱いものになりました。東京都心から離れたすずかけ台キャンパスで開催したにもかかわらず、年会には394名の参加者があり、年会論文集には209本の論文が掲載されました。このうち事前申し込み者は283名でした。冷房の不十分な会場で、配布させていただいた「うちわ」を片手に熱い発表・討論に加わっていただいた参加者の方々に感謝いたします。懇親会にも120名の参加者があり、すずかけ台の「荒々しい自然」を目の前にしながら、楽しく語り合っていただけだと思っております。

今回の大会で対応しきれなかった点として、会場準備の都合で直前になっての会場変更があったこと、会場での予稿印刷や無線LAN利用のアナウンスが不足していたことなどが挙げられます。ただ、少人数の年会実行委員での開催にもかかわらず、すべての年会企画委員の方々のご協力、何よりも、大勢の参加者の熱い思いに支えられて、第35回年会は成功裏に終了することができました。関係者の皆様に感謝いたします。

(日本科学教育学会第35回年会実行委員会委員長 寺野隆雄)

第36回年会 開催案内(第1次)

1. 日程：2012年8月27日(月)～29日(水)(3日間)

2. 会場：東京理科大学 神楽坂校舎

<http://www.sut.ac.jp/info/access/kagcamp.html>

3. 連絡先：

日本科学教育学会第36回年会実行委員会

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3

東京理科大学・理学部数学科・清水克彦研究室

若手の会は、年会の初日 8/23 (火) の夜に、あざみ野駅近くのお店で開催しました。参加者数は、企画担当委員を含めて、計 14 名でした。20 代、30 代に限らず、さまざまな年齢層の方々にご参加頂きました。

会合では、専門分野の異なる「若手」が、それぞれの興味・関心について気さくな雰囲気でお話し合うことで、普段とは違う刺激を受けたり、科学教育の今後の展望なども語り合ったりしました。ご参加頂いたみなさま、ご支援頂いたみなさまに感謝申し上げます。

ここ 3 年に渡って、若手同士のネットワークづくりを目的に会合を開催してきました。また来年度の企画を考えていきたいと思っておりますので、今後ともご協力の程よろしくお願い申し上げます。

第 35 回年会「若手の会」企画担当委員

青山和裕 (愛知教育大学) *kaoyama [at mark] auecc.aichi-edu.ac.jp*

加藤久恵 (兵庫教育大学) *katohi [at mark] hyogo-u.ac.jp*

国際交流委員会だより

外国語版ホームページ更新のお知らせ

この度、学会ホームページの外国語部分を更新しましたのでお知らせします。「Other Language」(<http://www.jsse.jp/jsse/modules/note8/>) をクリックすると、「英語」「中国語」「韓国語」で、「入会案内」「投稿規定」「論文審査の観点」を閲覧することが可能になりました。会員の皆様の国際交流に役立てて頂ければ幸いです。今回のホームページ更新に際して、上越教育大学の久保田先生、信州大学の茅野先生をはじめ多くの方々にご協力を頂きました。心よりお礼申し上げます。

日本の大学に在籍中の留学生の出身国は、中国と韓国が上位 2 カ国で、その 2 カ国からの留学生が全外国人留学生の約 75% を占めています。日本人の海外留学については、米国、オーストラリア、イギリスが上位 3 カ国で、その 3 カ国への日本人留学生が全日本人留学生の約 48% を占めています。身近な外国人留学生や海外で活躍する日本人留学生に日本科学教育学会の活動を積極的にご紹介頂きますようお願いいたします。

(愛媛大学 隅田 学)

海外の学会参加報告 (1) ~ ESERA2011 ~

2011 年 9 月 5 日から 9 日の間、フランス・リヨンにて European Science Education Research Association (ESERA) 2011 Conference (<http://www.esera2011.fr/en/scientific-programme.html>) が開催されました。私は今回、発表者として当学会に参加してきました。ESERA はヨーロッパを中心とし

ながら、アジア、アメリカ、オーストラリアなどからも多数の参加者のある大規模な国際科学教育学会です。今回の参加登録は 1200 以上であったということです。当学会は 2 年に 1 度開催されます。今年度の大会テーマは‘Science learning and citizenship’でした。発表件数は一般口頭発表が約 690 件、ポスター発表が 240 件でした。日本からは口頭発表が 3 件、ポスター発表 4 件がありました。この国際学会では、‘Learning science - conceptual understanding’、‘Teaching and learning science’、‘Discourse and argumentation in science education’、‘Scientific literacy and socio scientific issues’、‘Cultural, Social and Gender Issues’など 14 の研究テーマに分かれて研究発表がなされます。日本国内の学会ではあまり取り上げられていないような研究内容も数多くあり、海外研究者らとの議論は刺激的です。ランチタイムやティータイムでの談話には言葉の問題があり、なかなかスムーズについていけないこともあります。たいへん興味深いものです。私は、前回行われたトルコに初めて参加・発表し、今回で 2 度目となりました。今後もこうした国際学会での参加発表をはじめ、国内外の研究動向を広く知り、深めていく機会を持ち続けたいと思います。

(神戸女学院大学 三宅志穂)

編集委員会だより

平成 23 年 8 月 23 日(火) 12:00～13:00、平成 23 年度第 1 回編集委員会(編集理事会委員と編集委員会委員による合同委員会)が東京工業大学すずかけ台キャンパス G 会場(J2 棟 3 階 J234 教室)において開催されました。

まず、平成 22 年度第 3 回編集理事会議事録の確認と「科学教育研究」の編集状況の報告が行われました。

新規投稿論文(2011.6.9～2011.8.11)が 12 編(和文 11 編、英文 1 編)、査読中論文 14 編(査読員選定中 2 編、第 1 回査読中 5 編、担当編集委員による総合判定中(1 回目)1 編、改訂稿待ち 2 編、第 2 回査読中 2 編、担当編集委員による総合判定中(2 回目)1 編、編集委員長による最終判定 1 編)掲載決定論文が 4 編(研究論文 3 編、プラザ 1 編(35-3:7 編、35-4:1 編))です。

次に、査読規程の追加修正案について、中山編集委員長より報告がありました。

最後に、土田編集担当理事から、第 36 巻特集「科学才能教育(Science Education for the Gifted)」のお知らせと、中山編集委員長より、第 37 巻特集のテーマについて、科学教育における教師教育に関わる理論や実践という方向で、検討を進めることが報告されました。

次回、平成 23 年度第 1 回編集理事会は 2011 年 11 月 19 日(土) 11 時から 14 時、場所はコクヨ品川オフィスを予定しています。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

(平成23年8月11日 現在)

	新規投稿論文数(編)		審査中(編)		掲載決定論文数(掲載号)		招待論文数(掲載号)		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2010年 8月	7	0	14	1	1 (34-3)	0 (34-3)	0		3	0
9月	2	0	13	1	1 (34-4)	0 (34-4)	0		1	0
10月	12	0	21	0	3 (34-4)	0 (34-4)	0		3	0
11月	5	0	20	0	2 (34-4)	0 (34-4)	0		1	0
12月	2	0	17	0	0 (34-4)	0 (34-4)	0		5	0
2011年 1月	5	0	20	0	1 (35-1)	0 (35-1)	0		2	0
2月	7	1	20	1	0 (35-2)	0 (35-2)	0		2	0
3月	9	1	16	2	2 (35-1)	0 (35-1)	0		3	0
4月	6	1	21	2	3 (35-2)	0 (35-2)	3 (35-2)		2	0
5月	4	0	19	0	0 (35-3)	0 (35-3)	0		3	0
6月	7	0	19	0	1 (35-3)	1 (35-3)	0		6	0
7月	5	1	17	1	0 (35-2)	0 (35-2)	0		5	0
8月	0	0	13	1	3 (35-3)	0 (35-3)	0		3	0

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第204号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」(Web メール)をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：荻原 彰(三重大) 久保田善彦(上越教育大)
 委員：隅田 学(愛媛大) 土田 理(鹿児島大) 藤岡達也(上越教育大)
 二見尚之(湘南工科大) 美馬のゆり(はこだて未来大)
 谷塚光典(信州大) 渡辺政隆(科学技術振興機構)
 幹事：茅野公穂(信州大) 福井智紀(麻布大)

科学教育研究レター編集・印刷 日本科学教育学会広報委員会

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL: <http://www.jsse.jp>

事務局 愛知教育大学 理科教育講座 内
 事務支局(入退会・会費・学会誌発送関連)

TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662
 E-mail: [jsse\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

中西印刷(株) 学会部 内
 編集事務局(論文投稿・査読編集)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル
 TEL: 075-415-3155 FAX: 075-417-2050
 E-mail: [jsse-hen\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

中西印刷(株) 学会部 内 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座: 00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座: みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会